

学励コース「医療専攻」たより



新潟県立新潟西高等学校 Vol.7 平成27年2月10日

医療業務に携わる人材(看護師・保健師・医療検査技師・診療放射線技師等)育成のための進学指導を行います。→ 新潟大学医学部保健学科、新潟県立看護大学、新潟医療福祉大学、新潟青陵大学等の進学を目指します。

〇12月25日(木) 医療講演会13:00~15:30

講師：坪倉繁美先生(新潟県立看護大学教授) 演題：『医療事故・現在の医療が抱える問題』

今回は医療専攻2年生の今年度の最終講演会でした。医療の暗くて重い問題点について御講演・御講義いただきました。先生は終始笑顔でエネルギッシュ。休憩なしの活気に溢れた150分間でした。



【笑顔と情熱溢れる坪倉先生】



【グループディスカッション】

12月25日(木) 当日の流れ：

13:00~15:00 先生の自己紹介 講義(グループディスカッションを含む)

15:00~15:30 質疑応答

【講義内容】

- ① 世代別に見た高齢者人口の推移
- ② 医療や福祉をめぐるサービス需要の高まり
- ③ 医療提供体制の各国比較
- ④ 看護を取り巻く社会の変化
- ⑤ プロフェッションとしての看護職と法律
- ⑥ 看護行為に伴う法的責任
- ⑦ 「ケアする」ということ
- ⑧ 看護と介護との違い
- ⑨ 人間の欲求の階層について
- ⑩ 日常におけるケアの意義
- ⑪ チームで実現させる医療・看護・介護・福祉
- ⑫ 医療事故に関するパラダイムシフト 「スイスチーズモデル」の視点とシステム改善
- ⑬ 医療事故予防のための能力育成・・・「倫理」「判断」「技術」・・・「安全文化」の構築

【生徒の感想】

具体的な話をお聞きして、自分で感動を覚えることで感情移入しながら講話を聞くことができました。患者さんに合ったケアをすること、患者さんの身体だけではなく心もケアすること、患者さんをケアすることで患者さんの家族のケアにも繋がることなど、ケアについてたくさん学ぶことができました。今まで私は患者さんの身体だけをお世話することが「ケア」だと思っていたので、ケアに対するイメージが変わりました。坪倉先生の看護師という仕事への誇りを感じることができ、改めて看護師という仕事は人の役にたつことのできる、とても良い仕事だと思いました。

今回は、「ケア、お金、医療事故」について学びました。「ケア」するとはどういうことなのか、改めて理解できました。ケアには色々なやり方があり、その患者さんに合ったケアをすることの重要性を学びました。医療事故については、はじめてその重大さを知りました。私は看護師志望なので、今の志望に合った講演をお聞きできて、良かったです。学んだことは、これからの活動に活かしていけたら良いなと思いました。

今回の講演会では、2つの話(看護の日・看護週間 『忘れられない看護エピソード』から)について周囲の人と思ったことを話し合う活動が、とても印象的でした。私は、なかなかすぐに自分が思っていることを言えなくて、自分が積極的ではないことが気になりました。もっと積極的にならないといけないと、すごく後悔しました。しかし、この2つの話を読んで、看護師という職業はとても素敵だと思いました。他人を思いやり寄り添うということは、すごく大変なことですが、先生のお話をお聞きして、看護師はすごくやりがいがあるなと感じました。

「現在の医療の課題・医療事故」という、今までとは少し違う視点から、医療・看護に触れることができました。これまでの医療講演会でもそうですが、1つだけの視点で見たり関わったりするのではなく、医師や看護師、助産師など様々な職種からの視点や、患者さんからの視点、終末期医療からの視点、そして、実際に働いている方の姿を見なければわからない視点などから考えることができました。普段はあまり感じることも、気づくことができない「医療の暗い部分」から考えることができ、医療について更に深く考えることのできた講演会でした。

今まで「医療事故」という言葉は耳にしたことがあったけれども、詳しくは知らなかったので、何が原因でどのように医療事故が起こるのか、また、医療事故予防のためにはどうすればいいのかなど、初めて学ぶことが多かったです。今からでも「倫理(観)」は形成できることを知り、今後、努力しようと思いました。「看護エピソード」については、2つとも感動する内容で、患者さんひとりひとりにあう看護を行うことで、奇跡のようなことが起こるのだと感じました。今回学んだことを忘れず、今後活かしていきたいと思います。

今回の講演会の内容は、かなり専門的なことでした。その中で特に大切だと思ったことは、「相手の望む看護をすることによって、自分自身を高める。」ということでした。相手を看護する上で、病気を治すことだけを考えて治療するのではなく、相手が望んでいるにもかかわらず表に出さない欲求を引き出し理解することによって、看護者自身も生かされていることを実感できるということが納得できました。また、ディスカッションの場面で、資料を読んで、絶対に少しでも可能性がある限り諦めてはいけないのだと思いました。自分もそんなふうには患者さんから頼られる存在になりたいと思いました。